

My First Stage

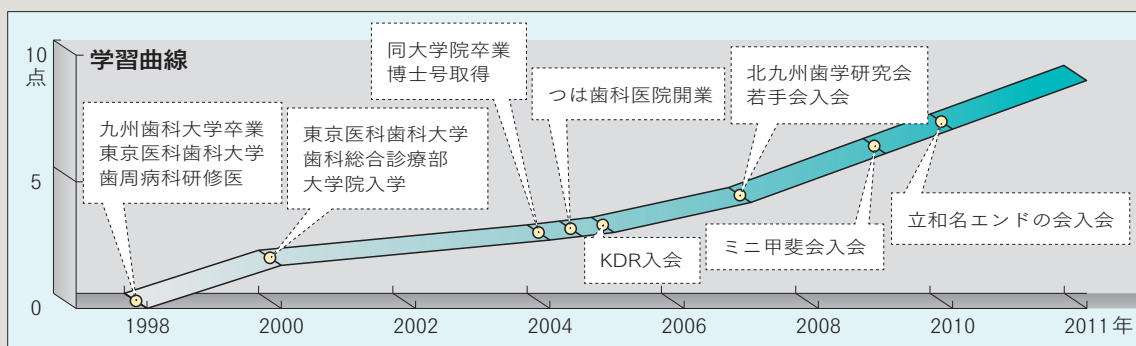
エックス線診断の重要性と根尖病変への対応

津覇雄三

キーワード：根尖病変，デンタルエックス線，感染根管処置

臨床経験

卒後13年目。九州歯科大学を卒業後、東京医科歯科大学研修医、大学院を経て、つは歯科医院を開業。4年前より北九州歯学研究会若手会に入会し、その後ミニ甲斐会、立和名エンドの会に入会、現在に至る。



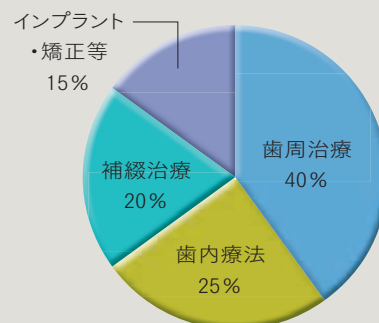
診療方針

患者とのコミュニケーションを大事にし、主訴を第一に受け止めながらも全體的な診査、診断を確実にを行い、一歯一歯の基本治療をていねいに行うことによりなるべく歯の保存に努めることを一番の目標としている。また、患者の口腔内が長期的に安定するよう、スタッフ全員でサポートしていただけるように努力することを医院の方針としている。

日々の臨床

九州歯科大学に近いことや近くに他大学もあることから、若い患者が多い。また、近くに複数の歯科医院が建ち並んでいるため棲み分けができているのか、高齢者が比較的少なく、同世代の患者が多い。そこから家族での来院が多くなり、小児の患者も比較的多い。臨床内容としては保険診療が大部分を占めるが全顎矯正、インプラントなど自費診療も行っている。

【日常臨床で頻度の多い割合】



企画趣旨

患者の主訴や口腔内状態など、その背景はさまざまであるが、「1 歯の治療にこだわること」、それがすべての基本であり、はじめの1 歩といえよう。

本欄では、患者の背景を踏まえつつ1 歯に対する治療にこだわる若手歯科医師に、どのように診査・診断し治療計画を立て、治療結果を得たのか、その患者と信頼関係を築くまでの過程を自己評価も含め提示いただく。また、師匠や先輩歯科医師からのメッセージもあわせて掲載。

「1 歯の保存にこだわる！」

津覇雄三

Yuzo Tsuha

福岡県開業 つは歯科医院
連絡先：〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区
下到津4 丁目8-3 御幸マンション2F



初診時の状態



図1 | 図2

図1 | 7は咬合調整を行い、感染根管処置時に撮影した。

図2 | 7に根尖病変が認められたため、感染根管処置を行う。

患者のバックグラウンド

■患者：62歳，男性。2008年11月，初診。まじめな性格で話は熱心に聞いてくれる。仕事のため休みが不定期で，1～2週間に1回程度の通院は可能だができるだけ通いたくないとのこと。歯科治療に対しては消極的で，保険治療を希望していた。

■主訴：左上が痛くて噛めないということで来院。「何日前に歯ぐきが腫れ，今も少し腫れて歯ぐきを押し

と痛い」とのことだった。

■歯科の既往歴：歯科医院は2年ぶりくらいとのことだった。ブラッシング状態は普通だが全体的に歯石の沈着が認められた。他の部位にう蝕等はなく，全体的に保険の補綴物で修復されていた。これまで歯科医院には痛くならないと通っていなかったとのこと，歯科に対する意識や知識は高くなかった。

診査，診断，治療計画

■どのように診査を進め，診断したか：7に打診痛が認められた。また，根尖部圧痛があり，電気歯髄診は反応がなく生活歯反応は認められなかった。デンタルエックス線診査から，根尖部に明瞭な透過像が見られたため，慢性根尖性歯周炎と診断した(図3)。

■診査結果および治療計画説明時の患者の反応：主訴である7のう蝕の状態と根尖部の病巣の説明をし，感染根管処置を行うこととともに，歯の咬耗状態からブラキシズムの存在と6の咬合性外傷からの骨欠損が根

分岐部に達しており状態があまりよくないことを説明し，全体的な歯周治療の必要性を説いた。7の治療に関しては納得してもらえたが，6に関しては積極的治療の同意を得ることができなかった。そこで全顎においてスケーリング・ルートプレーニングを行い，定期的検診をしながら，ポケット検査，エックス線撮影を行い，悪化するようであれば処置していくことのできることを得て，治療を開始した。

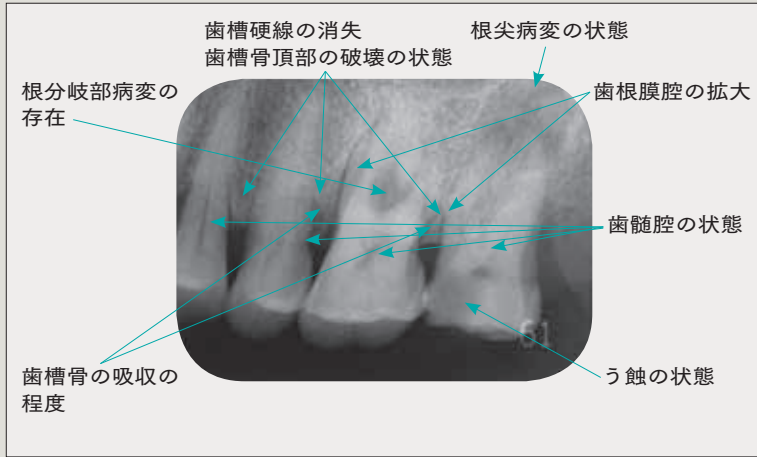


図3 このデンタルエックス線写真から読み取れる主な項目.



図4 根管口明示時の口腔内写真. 4根管を疑い, 根管拡大を行った. 根管拡大の際, 垂直的だけではなく水平的拡大も考えながら拡大していった.



図5 根管充填時のデンタルエックス線写真. 根尖病変の縮小傾向がみられたためAHプラスとガッタパーチャポイントによる根管充填を行った.



図6 補綴物セット時のデンタルエックス線写真. 歯質が十分残っていたため, ポストは全体的に短めに形成した. 補綴物は下顎との干渉を考え, 歯冠形態を遠心さがりの形態に修正した.



図7 根管充填後2年半のデンタルエックス線写真. [7]に関しては安定してきているといえる.

図8 根管充填後2年半の左側方面口腔内写真. [6]に関してはこれから十分な注意が必要である.

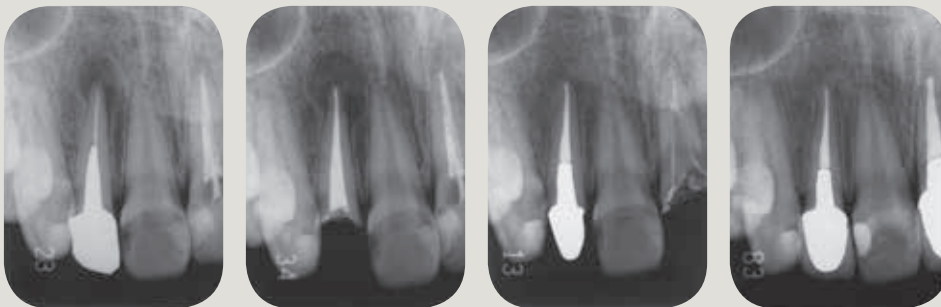


図9 左から初診時, 根管充填時, メタルコアセット時, 根管充填後1年のデンタルエックス線写真. 術後経過を正確に診断するためには, 規格性が重要になってくる.

治療結果の自己評価と患者の様子

咬合状態を考えながら補綴物をセットし、現在3か月に1度の来院でエックス線による|7の経過観察およびPMTCによる全体的な歯周組織のメンテナンスを行っている。2年半経過しているが、歯槽硬線の連続性も完全ではないがでてきており、安定してきているように見える。|6の状態はメンテナンス初期からポケットおよびエックス線像に変化はなく、悪化してはいないが引き続き注意が必要である。何より喜ばしいのは、これまで定期的に歯科医院に通うことのなかっ

た患者のモチベーションが上がり、口腔内に対する関心が高まっていることである。

■今後の課題：1歯の適切な診断と治療を行うためには、エックス線診断が重要である(図9)。とくに根尖病変のあった歯などはその後も経過観察する必要があり、エックス線写真の規格性がとても重要であると考えている。今後も基本的な治療をおろそかにしないように、包括的なテクニックをさらに磨いていきたいと思う。

先輩 Dr からのメッセージ



立和名 靖彦

1984年 福岡県立九州歯科大学卒業
1984年 北九州市上野歯科医院勤務
1988年 飯塚市白木歯科医院勤務
1989年 北九州市にて、たちわな歯科医院開設 現在に至る
北九州歯学研究会会員、JACD 会員、日本顎咬合学会認定医、日本審美歯科協会会員、日本歯科東洋学会会員

〔診療方針〕

基本的な治療を大切にしたいと、最高の治療より最良の治療を目指している。そのために、患者の考えや都合も聞き専門家としての意見を述べ、患者が納得したうえで治療を行いたいと考えている。また、患者とは一生付き合いたいと思っているので、自分が治療した歯は10年聞きちんと機能させることを目指している。そしてなにより患者から信頼される歯科医師でありたいと思っている。

▶ケースから感じること

卒業後13年、自院開業後7年ということで現在自分の歯科医院や、歯科医師としてのスタイルを構築中の時期であろうと思う。また、環境としても歯科医院の多い北九州市ということで、スタディグループに加入しているいろいろな方面の研鑽を積まれている途中であろう。このような筆者の勝手な先入観のなかで、本症例をみるといくつかアドバイスができる。

①治療の説明時期：最初にすべての説明を行っているが、筆者なら歯科治療への意識が高くない患者の場合、まず数回根管治療のみを行い、患者の信頼を得られたと思えたら、歯周病の説明を行う。そのほうが治療を受け入れてもらいやすい。②診査・診断：教科書的な診査項目を網羅しているが、複根歯の場合は各根管ごとの歯髄の生死、湾曲などの診査・診断が必要である。またエックス線写真より根尖病変の存在がわかれば、根尖孔の吸収度合いの診査も治療の手技的には必要となる。③根管治療中のTek：筆者なら治療中はTekを入れて治療を行う。根管へのアクセス、湾曲根管への対応、根面へのアクセス(SRP)など利点は多い。④対合歯：術後の口腔内写真を見ると、下顎の補綴物が気になる。咬合性外傷が骨欠損の一因であるなら、さらに踏み込んだ歯周治療の一環として再製をすべきではないだろうか。2年半のメンテナンス中に、その説明がなされたかも気になる。

▶さらに成長してもらうためのメッセージ

結果として、治療が完了しメンテナンスも継続中ということは、この患者は、つは歯科医院の治療に何らかの魅力を感じたのだらうと思う。何に惹きつけられたのかを、もう一度、患者自身にきいてみるのも、いいかもしれない。意外にスタッフの対応を気に入ってくれたりするものである。

個人的な集まりで臨床ケースなどを検討するなかで、津覇先生の芯の強さを感じることもある。反面、現在のところは自分の歯科臨床には絶対的な自信はなく、患者にもいま一歩踏み込めないのが実情ではないだろうか。これからも、毎日の臨床のなかで少しずつ自分の理想とする歯科治療を実践できるように、患者に説明し、納得してもらい、実行し、信頼され、継続してメンテナンスに通ってもらえるように、自分の実力アップに励んでほしい。幸いそれができる環境(スタディグループ)にはあると思う。また、同業である奥様と力を合わせ、役割を分担し、広い視野に立った歯科医療を作り上げてほしい。

本欄に対するご意見・ご質問は、本誌編集部：edit-q@quint-j.co.jp までお寄せください。